

# 情報通信 No.4

## 予算特別委員会 (平成17年度)

New Komei

登壇者: 佐藤ひろと 発行日: 2005.08



### 企画総務委員会所管分の質疑 (2005.03.15)

#### < 指定管理者制度について >

Q: 選考基準については区民へのサービスの向上と質の確保が最優先されるべき。安易な選考にならぬよう、選考過程の公開に見解を求める。

A: 選考過程には、施設所管ごとに選定委員会を設けて、外部の有識者等による客観的かつ専門的視点から、選定基準に基づき公平性を保っていく。

Q: 地域雇用、高齢者・障害者の雇用といった視点の、区の見解を求める。

A: 地域との連携や地域の活性化への寄与を含めて、総合的な見地に立って選考基準を設定するように調整を図る。

Q: 選定後の指定管理者の評価（評価指標）についての見解を求める。

A: 制度導入後も、区が区民の意向を把握して適切な評価を行い、施設の管理が適正に行われるように必要な対応をしていく。

#### < カラーユニバーサルデザインについて >

Q: カラーユニバーサルデザインについての区の認識を問う。

A: 現在、改定中の世田谷区全図については、カラーバリアフリーという対応項目が盛り込まれており、関係団体からの意見を参考に、様々な工夫や配慮をしていく。

Q: 区のホームページではどういう取り組みをしているのか。

A: 高齢者・障害者などを意識したアクセシビリティ（利便性）の重要性についてのガイドラインを検討していく。

#### < 区内の都立公園における防災スピーカーの設置状況について >

Q: 区内の都立公園における防災スピーカー等の放送設備が、未設置の公園がある。災害情報がすべての方に平等かつ正確に提供されるために区としての取り組みを問う。

A: 祖師谷公園と芦花公園にはまだ設置されておらず、現在、都公園関係所管と震災時の利用計画を検討中で、芦花公園と祖師谷公園の園内放送設備設置を要望した。災害時の情報弱者への情報提供に関しては手話、筆談、わかりやすい掲示板などによる情報提供、外国人災害情報センターの設置などが必要と考えている。今後は情報を得にくい方々の状況に応じた様々な手法により、迅速かつ正確な情報提供に努めていく。

## 都市整備委員会所管分の質疑（2005. 03. 23）

### <ヒートアイランド対策について >

Q：区が現在策定中の環境基本計画におけるヒートアイランド現象緩和対策の基本的な方針を問う。

A：地球環境に配慮した活動の支援、環境保全、資源循環型のまちづくりを計画的、総合的に進め、ヒートアイランド現象を発生させにくい環境共生型の都市づくりを推進していく。

Q：都市における緑や水辺の保全の推進について区のこれまでの取り組みを問う。

A：今まで保存樹木制度や、屋上緑化に対しても助成を行い、3月からはみどりの基本条例を制定して、建築時の緑化の規定を強化して緑豊かな環境の保全と創出に取り組んでいる。湧水保全では、雨水浸透枡等の設置助成も進め、国分寺崖線については、連続した緑地空間として保全していけるように崖線地区の設定を行い、水と緑の豊かな空間とすることでヒートアイランド対策につながるまちづくりを進めている。

Q：地域の水循環や様々な水の利用について考えていかななくてはならない。そこで雨水の利用について提案したい。東京では普段我々が使う水の量をはるかに上回る雨が降っているが、有効に利用しなかった結果、自然の循環が崩れてしまっている。雨を、普段の生活に活用していくことが、結果的に都市型の洪水を防いだり、災害時の防災用水として活用できると思うが、今後の取り組みについて問う。

A：行政として、さらに整備が必要だと考えている。雨水を資源として利活用するという視点は最重要であり、利活用のための貯留についても検討していく。

Q：世田谷区内の各家庭に雨水タンクの設置も提案したい。私が以前住んでいた深沢の環境共生住宅では、各バルコニーに200リットルの雨水タンクがあり、活用されている。都内一戸建て住宅に降る雨を単純に貯留したと考えると、年間1億3500万立米。これは群馬県の矢木沢ダムが一年間、東京に供給している水の量を上回る。これを利活用する意味は非常に大きい。これを世田谷区に当てはめると、区内の一戸建て住宅約16万4千棟に200リットルの雨水貯留タンクを設置すると、年間3・3万立米の雨水を貯留できて、この量で全世帯のトイレの流し水がまかなえることになる。公的な助成も視野に入れて区としてはどう考えるか？

A：3・3万立米というのは小さなダムに匹敵する貯留量で、世田谷区内に環境に優しいダムができるとも考えられ、助成も含めて研究した上で検討していく。

Q：公共施設における雨水の貯留槽がある。墨田区では路地尊と呼ばれるストリートファニチャーや、天水尊という手押しポンプが設置している施設など、区全体として区民と行政が連携して雨水利用に積極的に取り組んでいる。公共施設における雨水貯留槽の設置について、今後の方針を問う。

A：公共施設の利水という視点から整備のあり方を研究していく。

Q：地下鉄構内における漏出した地下水の利活用についての、進捗状況を問う。

A：世田谷区内の河川維持用水として有効活用する策を引き続き考えていく。

## 活動トピックス



区長へ区議団として子育て支援に関する陳情（2004.12.28）



弘栄会（佐藤ひろと後援会）第3回懇親会を開催（2005.05.12）



成城消防団第2分団選手として可股ポンプ操法大会にて優勝（2005.05.30）



企画総務常任委員として北海道へ行政視察（2005.07.11）



街頭演説にて